

二〇一四年 十一月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

## 今月の言葉

あくこう

ぜんごう

真理の一言は悪業を転じて善業と成す

らくほうもんるい

## 『楽邦文類』

「わかっちゃいるけどやめられない」

昭和時代に流行った「スーダラ節」の一節です。

休み明けのテストが待っているのに、ダラダラと観てしまうテレビ。「もう一回だけ」を繰り返して、時間を忘れて熱中してしまうゲーム。わかっちゃいるけど、やめられません。

仏教では、欲望をコントロールできず、苦悩を招く行いを悪業と言います。無論、仏教がこのような悪業を勧めているわけではありません。にもかかわらず、この私はなかなかやめられません。そんな私の根性を見抜かれた仏さまは、「南無阿弥陀仏」という真理の一言をお示しになりました。

仏さまの智慧はしばしば海にたとえられます。海は汚い川も、きれいな川も、どんな川も受け止めて、同じ塩味に変えます。同様に、その真理の一言は、悪業をやめられない人間も、受け止めて、さとりへと導くお言葉なのです。

## 今月の聖語

人のわるきことはよくよくみゆるなり

わが身のわるきことはおぼえざるなり

れんによしようにん

蓮如上人

昔、「今まで、悪いことをしたことがない」と言う若者がいました。

ある老僧は彼に言いました。「バケツに一杯になるように小石を集めてこい」と。若者は、庭中から小石を集めてきました。さらに老僧は、「このバケツ一杯分と同じ重さの大きな石を一つもってこい」と言い、若者は庭の端から大きな石を運んできました。今度は、「ではその大きな石をもとの場所へ戻してこい」と老僧が言いました。若者はしぶしぶ石を元の場所へ返しました。続けて、老僧は命じます。「では、バケツの小石をそれぞれ元の場所へ戻して来い」と。さすがの若者も黙っていません。「小石のあった場所をいちいち覚えていません。無理です」。

すると、老僧が言いました。「お前の犯してきた罪も同じだ。大きな罪なら、忘れもしまい。だが、小石のように小さな罪は身に覚えがないものだ。小石でも集めると、大きな石と同じ重さになるように、お前が気付かずに犯してきた罪はとても重たいものである」と。

人の「わるきこと」には気付きますが、特に自分の小さな「わるきこと」にはなかなか気付きません。知らぬ内に犯してしまっている罪。その恐ろしさを教えてくれるお言葉。

※①わるきこと…悪いこと ※②みゆるなり…みえる ※③おぼえざるなり…気付かない